

請 願 文 書 表

(総合企画局)

受理番号	1101	受理年月日	令和3年7月9日
件名	北陸新幹線京都延伸計画への不同意		
要旨	<p>私たちが、この間、京都市民の暮らしと環境に大きな影響を及ぼす北陸新幹線京都延伸問題に取り組んできた。この計画は、京都を縦断する巨大トンネル工事による大量の残土、建設汚泥がもたらす環境破壊、そこに含まれるヒ素などの重金属の環境への放出、京都の水循環に与える大きな影響、既に大事故が発生している大深度地下使用法の適用問題など、京都のまちと自然、暮らしに破壊的影響を与える危険な計画である。さらに、概算で2兆1千億円と言われるばく大な建設費の問題は、私たち納税者にとって、また京都市にとって巨額の負担を強いられる極めて重大な問題である。</p> <p>先日、京都市は京都府との共同提案で、国土交通省に対して、地元負担実質ゼロないし極小化の提案、要望を行った。ここでは、なぜこの提案になったのか様々なことが書かれているが、京都市が喫緊の課題と位置付ける財政状況の悪化との関わりは全く触れられていない。</p> <p>北陸新幹線京都延伸計画は、現状でも費用対効果が1.1とほとんど採算性が欠如した計画である。現在、工事が行われている金沢・敦賀間でさえ、設計変更やトンネル内での盤ぶくれ、人件費や資材の高騰で建設費が拡大し、当初1兆1,858億円だった事業費は1兆7,000億円(5,000億円増)と大膨張している。1キロメートル当たり148億円の金沢・敦賀間の建設費と比して、北陸新幹線京都延伸ルート建設費が1キロメートル当たり150億円とされているが、この金額で収まるはずがないことは素人でも分かることである。採算性もなく、ばく大な費用が掛かる北陸新幹線京都延伸計画は、今中止を決断することが求められている。</p> <p>最近、京都市は行財政改革計画(案)を発表し、市民に意見を求めている。この案に先立って行われた第2回京都市持続可能な行財政審議会では、京都市の財政状況が非常に厳しい状況に至った要因を次のように述べている。その第一は、平成初期の大規模投資に伴う重い公債費負担であり、四つの事業が挙げられている。第二に、地下鉄への財政支援を含めたこの間の財政運営である。これらの事業それぞれの是非は論じないが、京都市における地下鉄建設、特に東西線の建設事業が、財政的には全く見合うものではなかったこと、それが現在の状況を生み出している大きな要因の一つであることは明らかである。</p> <p>こうした反省に立てば、本市に巨額の負担を強いる北陸新幹線京都延伸計画について、京都市会が、財政上、京都市のばく大な負担には同意することはできないと表明することが、市民の暮らしを守るという点から切実に求められている。北陸新幹線京都延伸計画は、市民の暮らしを大きく犠牲にしてでも実現しなければならないものではない。10年以内に市財政は破綻と言うなら、北陸新幹線京都延伸計画について、巨額の財政負担はできないことを市会は表明してほしい。この計画を聖域に置くことなど許されない。</p> <p>については、財政上、京都市は巨額の負担を強いる北陸新幹線京都延伸計画には同意できないと、計画不同意の決議をすることを願う。</p> <p>なお、本請願について、署名54筆を添えて提出する。</p>		
請願者			
紹介議員	加藤 あい、樋口 英明、かまの敏徳		
付託委員会	総務消防委員会		